

平成23年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 549

22年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
				管理運営委託(指定管理者)	6
		図書館サービス業務委託	4	館	179,421
		図書館資料購入・装備	13	館	206,374
		図書館システム管理(図書サービスコーナー等含む)	16	施設	134,779
		その他 (情報環境の提供、ブックスタート、子供読書活動推進ほか)			61,518
	(2) 事業実績	新たに地域図書館4館を指定管理者による運営としました。残りの地域館の指定管理制度導入については、指定管理者による運営の評価を行ったうえで判断することとしました。また、引き続き経営評価・利用者満足度調査を実施し、効率的・効果的な図書館運営と創意工夫による図書館づくりの推進を図りました。さらに、前年度に改定した「子供読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動への取組を進めました。			

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか <input type="text" value="十分に実現している"/>	(2) 協働等の相手 <input type="text" value="企業・個人事業者((3)へ)"/>	
	(3) 協働等の形態 <input type="text" value="委託 [業務量の50%以上に相当]"/>	(4) 協働等の今後のあり方 <input type="text" value="実施継続"/>	

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	昭和25年の区立図書館設置から、現在は13館が整備され、他にもサービスコーナーやふれあい図書室など計17施設で図書館サービスを提供しています。また、平成17年度から民との協働を進め、運営方式は直営、委託、指定管理、ボランティアによる運営など様々な方式となっており、今後の運営方式について改めて考える時期にきています。サービス面では、平成18年度の新図書館システム稼働、19年度の利用者用インターネットパソコン設置など情報化の推進、地域の課題解決、区民の自立を支援するサービスの提供などを進めました。	
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	指定管理者による図書館運営、情報化の進展による新たなサービスへの対応、駅前図書コーナーの充実など、図書館の運営形態や図書資料の貸出・返却の拠点となる窓口に関する意見のほか、地域の課題解決・区民の自立支援に役立つ図書館、より充実した電子情報・電子書籍等の提供について要望が寄せられています。	
	今後の予測	地域の課題解決や区民の自立支援といった「生涯現役の地域社会を支える図書館」への期待が一層高まっています。また、区民のIT機器利用が高まり、デジタル情報の提供サービスを充実させるよう要望が増えていくと考えられます。こうした中で、区立図書館に求められる役割も「情報の蓄積と提供」へと変化していくと考えられます。	
	評価と課題	図書館基本方針に基づき、地域館への指定管理制度導入や委託化を進めた結果、区立図書館の効率的・効果的な運営、サービスの充実が進みました。一方で、図書資料の質の確保、「区民に役立つ図書館」を実践する図書館職員のレファレンスワーク(資料の紹介、調べ方の案内など資料に関する調査・相談を行うこと。)の向上などの課題も挙がっています。今後、基本構想・総合計画の検討を進め、これからの区立図書館のあるべき姿と運営方法を考えていく必要があります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡 充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> 廃 止
		II 事業の改善	<input type="radio"/> 事業内容の変更 <input checked="" type="radio"/> 実施方法の変更
	区立図書館14館構想に基づき、高円寺地域に新たな図書館を建設します。 地域図書館全館指定管理化の方針のもと、平成22年度から地域図書館12館のうち6館が指定管理者による運営となりましたが、残りの館を指定管理化するにあたっては、第三者評価を実施することとしました。 一方で、新たな基本構想、総合計画を策定していく中で、改めて大きな視点から図書館の価値を捉え直し、今後の区立図書館の目指すべき方向性を考えていく必要があります。この検討にあわせて、「区民に役立つ図書館」に最もふさわしい運営形態を定めていきます。		

特記事項	
------	--

平成23年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 552

22年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
				設備保守管理委託	7
		光熱水費	7	館	44,817
		施設維持管理費	7	館	12,147
		事務用機器類	7	館	2,262
		その他 ()			0
	(2) 事業実績	中央図書館及び地域図書館における光熱水費の支払い業務のほか、清掃業務委託や警備委託などの施設管理業務、事務機器等の賃借、施設の修繕などを実施しています。22年度は、柿木、西荻、阿佐谷、南荻窪4館の児童トイレを洋式化し、高円寺図書館施設内に防犯カメラを設置しました。なお、年間維持管理経費の総額で比較するとH21は189,993千円、H22は133,134千円で、56,859千円(29.9%)の減ですが、これは新たに4館が指定管理に移行したためです。			

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している	(2) 協働等の相手 企業・個人事業者((3)へ)	
	(3) 協働等の形態 委託 [業務量の50%以上に相当]	(4) 協働等の今後のあり方 推進	

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	昭和25年に杉並区立杉並図書館として発足以後、昭和40年に現在の永福図書館、柿木図書館が建設され、昭和57年開館の中央図書館を経て、最も新しい平成19年建設の今川図書館まで区内には13の施設があります。これまでの計画に基づく14館構想最後の館は、高円寺、和田地区に建設を予定しています。なお、指定管理者による運営に移行した地域図書館の施設維持管理業務は、指定管理者自らが実施します。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	施設の老朽化による施設の使い勝手の悪さに関する要望や、閲覧席・学習室等の設置希望、バリアフリーの観点からの昇降機や段差の解消、空調機やOA機器等の機械設備・建物設備に関する改善要望が出されています。
	今後の予測	既存の13館の中で、比較的早期に建設された、永福、柿木の2館(昭和40年築)、宮前図書館(昭和47年築)では、建物の老朽化が進んでいるため、改修・改築が必要となる場合が想定されます。
	評価と課題	平成22年度杉並区図書館経営評価報告書では、施設維持管理に関して、安全管理、衛生管理及び環境基準の遵守の項目について、全館がAの評価結果を得ました。また、利用者満足度調査結果においても「清潔で、利用しやすいか」の質問に対して、良い、やや良いを合わせて94.1%と高い評価を得ています。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ 廃 止
		II 事業の改善	○ 事業内容の変更 ○ 実施方法の変更
	14館構想の最後の1館である、高円寺・和田地区の図書館建設の早期実現を目指すと共に、既存の13館のうち築年数が20年以上となる永福、柿木、宮前図書館については、建物の老朽化の進行に合わせて改修・改築を行い、利用者には不便を感じさせないよう努めていきます。 地震等の災害に備えて、引き続き消防設備、防災設備の管理に万全を期していくとともに、段差の解消等、施設内のバリアフリー化を図ります。更に、環境に配慮した施設管理の実施のため、省エネ型の照明器具の使用や空調の設定温度の28度遵守を徹底するなど、光熱水費の削減を目指し、環境にやさしい図書館運営に努めます。		

特記事項	
------	--